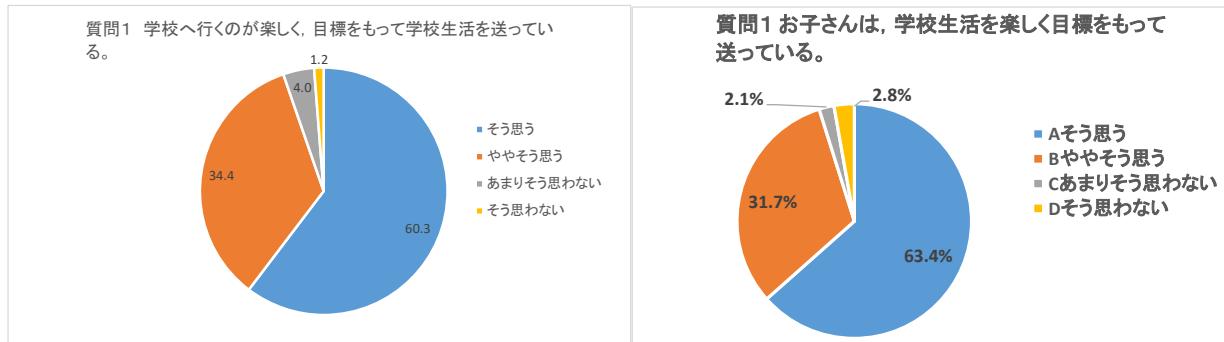


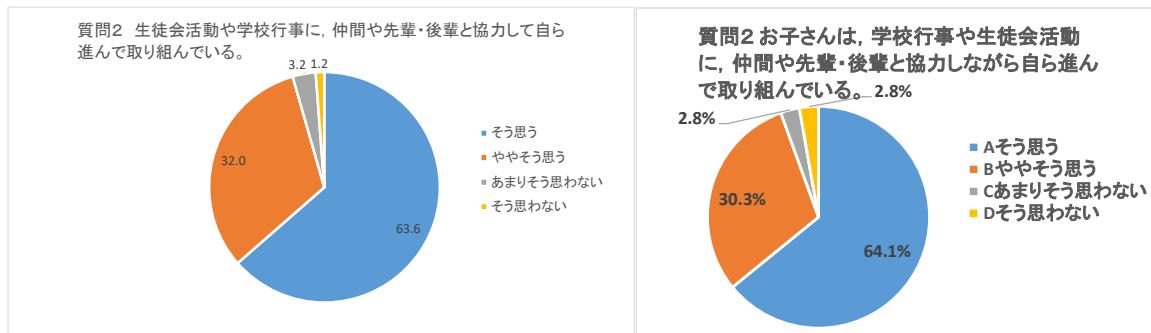
令和6年度 学校及び家庭における生活振り返り調査結果

※青色とオレンジ色は肯定的の意見

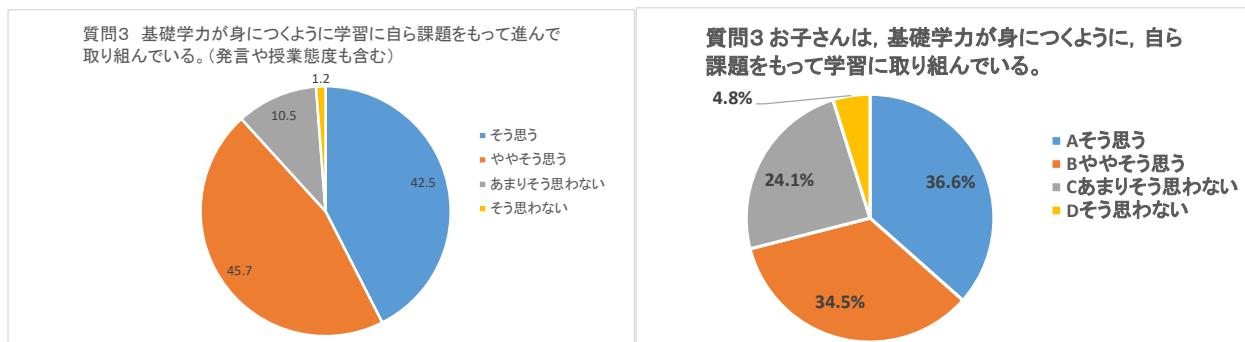
1 学校が楽しく、目標を持って学校生活を送っているか



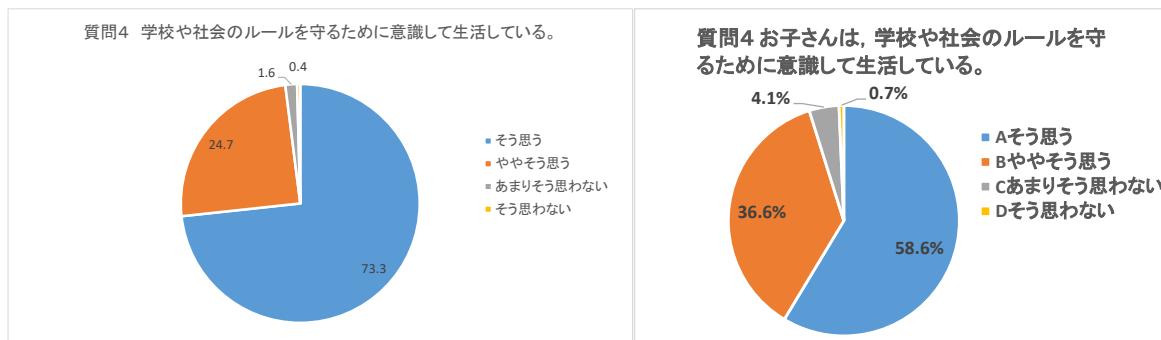
2 仲間と協力しながら自ら進んで取り組んでいるか



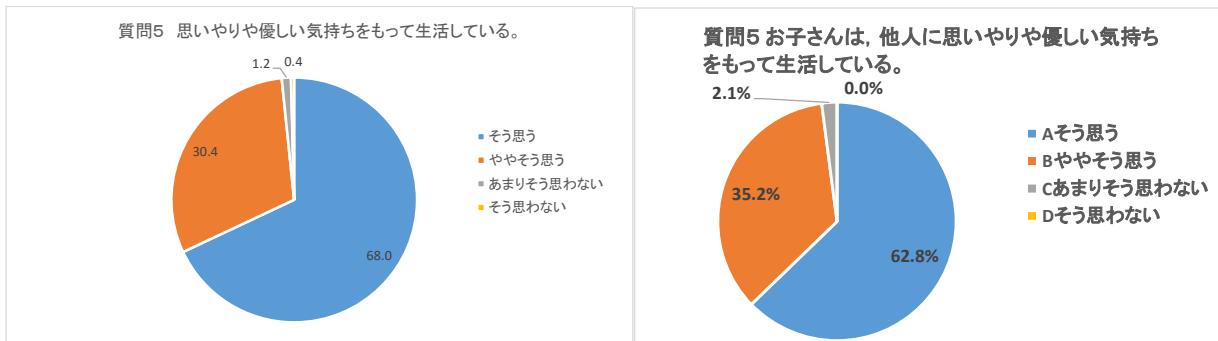
3 自ら課題を持って学習に取り組んでいるか



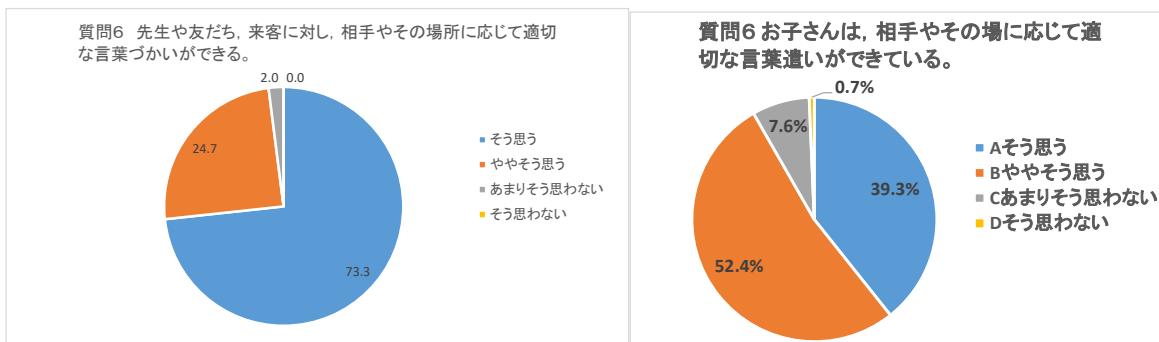
4 学校や社会のルールを守って生活しているか



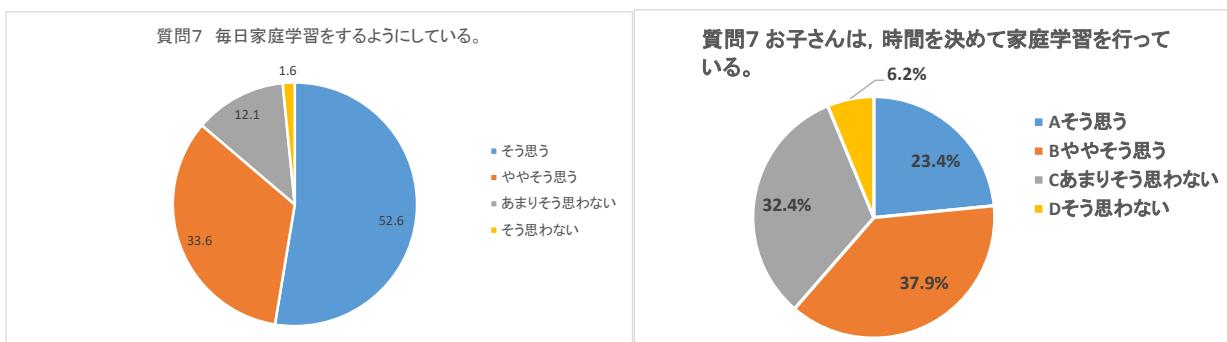
5 思いやりや優しい気持ちを持って生活しているか



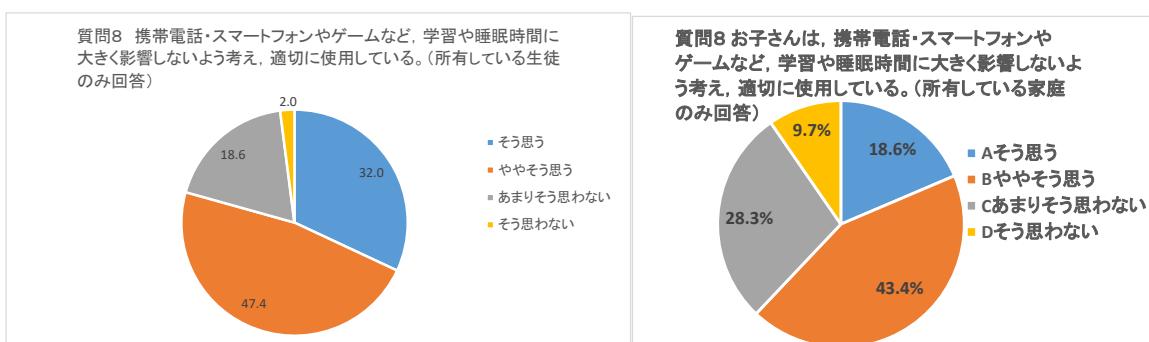
6 相手やその場に応じて適切な言葉遣いができるか



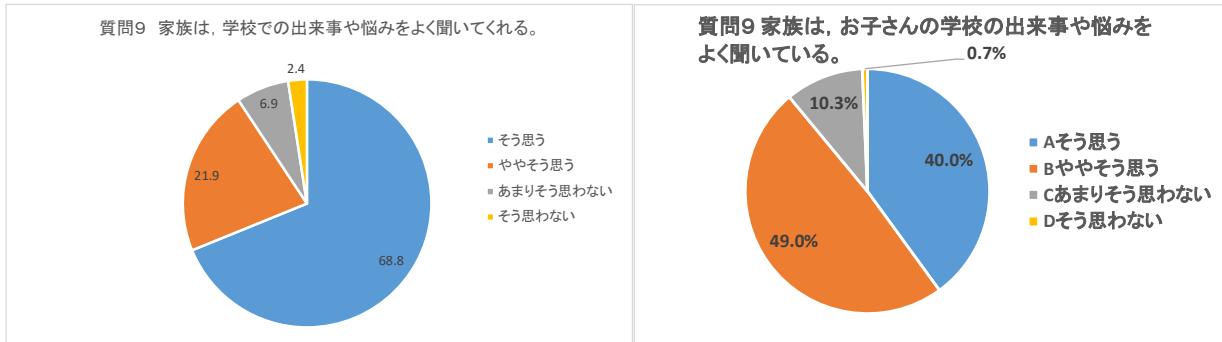
7 毎日、家庭学習をしているか



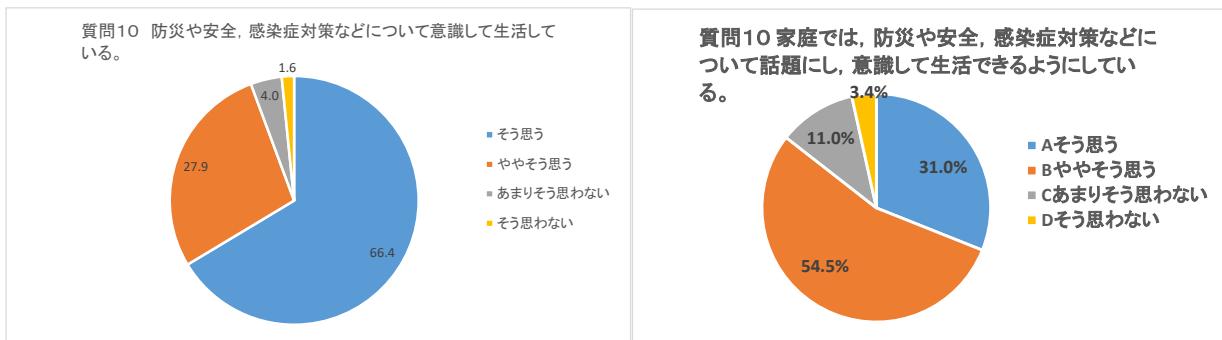
8 携帯電話やスマホ等を適切に使用しているか【時間】



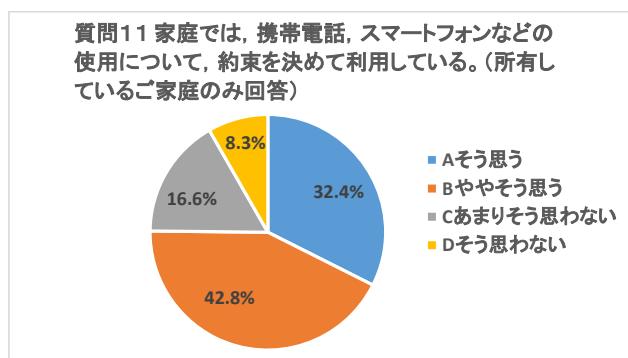
9 家族は、学校での悩みを聞いてくれるか



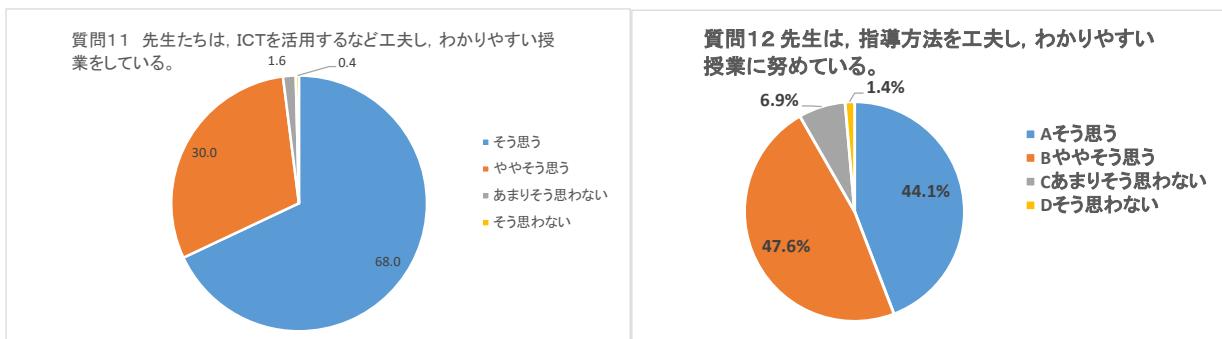
10 防災や安全、感染症対策などについて、意識して生活している



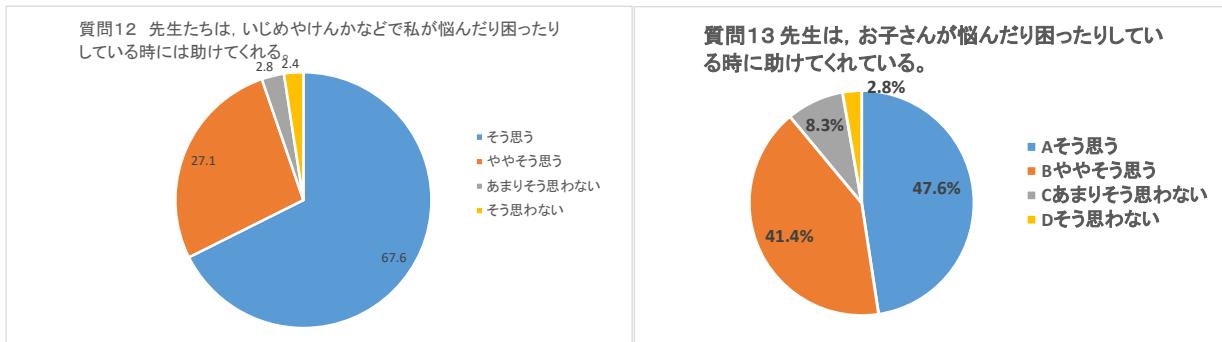
11 携帯電話やスマホを使用する際、情報モラルを意識して適切な利用をしているか【使用方法】



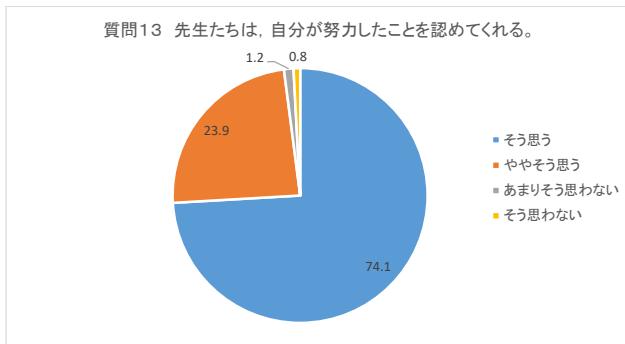
12 先生たちは、わかりやすい授業をしているか



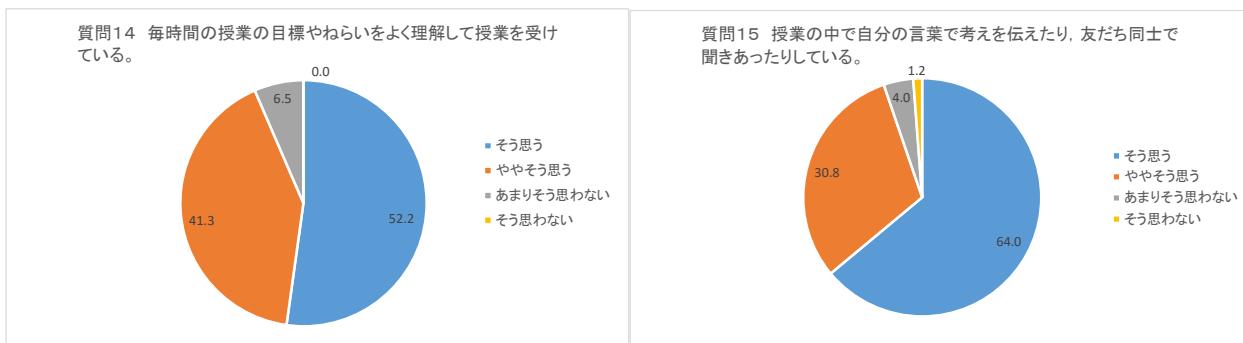
1.3 先生たちは、いじめやけんか等で悩んでいたり困っていたりするときに助けてくれるか

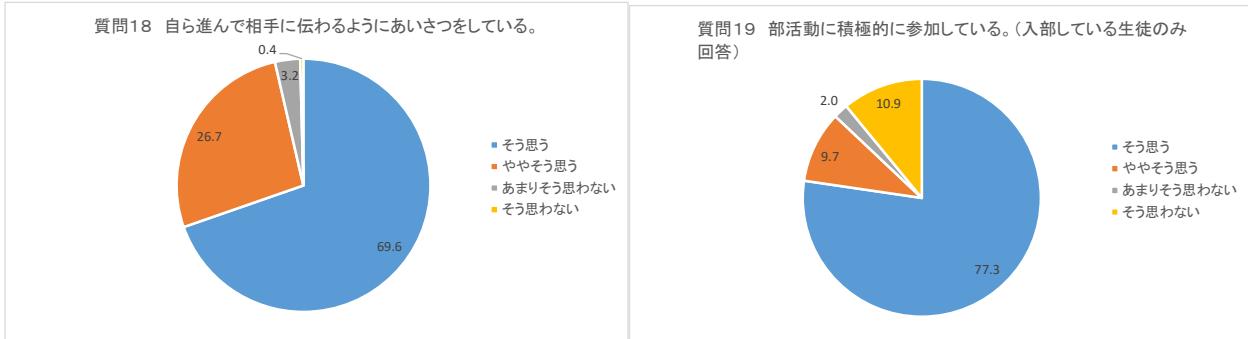


1.4 先生たちは、自分がしたことを認めてくれるか

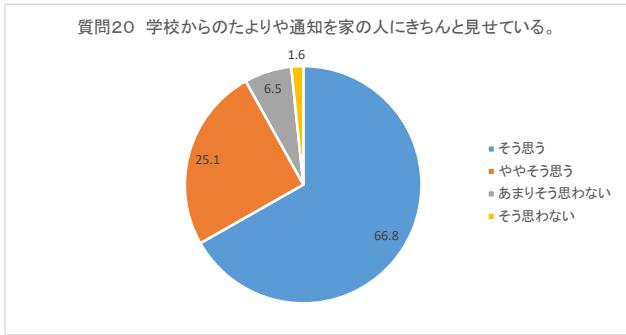
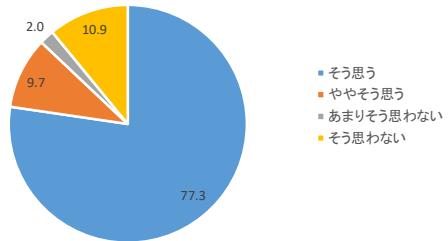


生徒のみ：基本的な学習態度等について

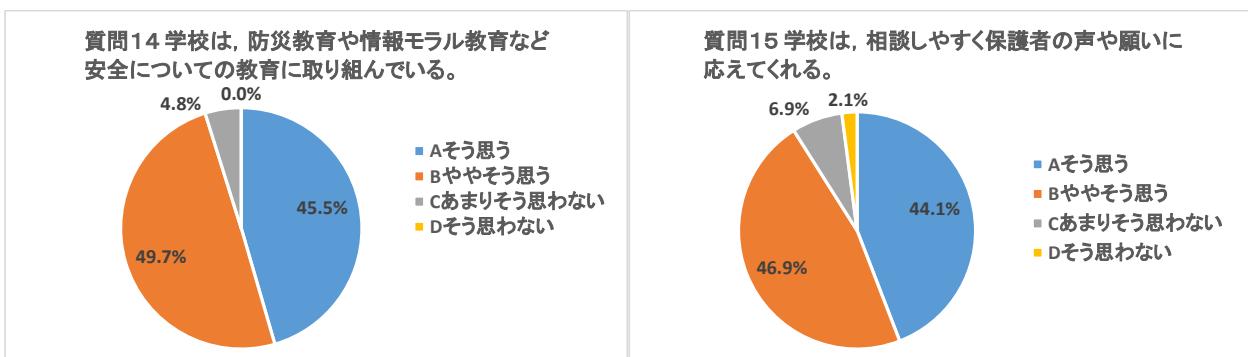




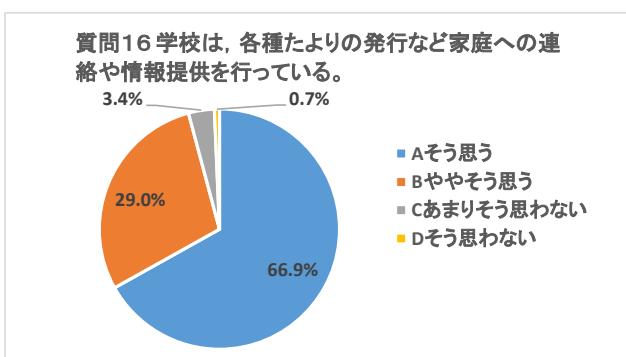
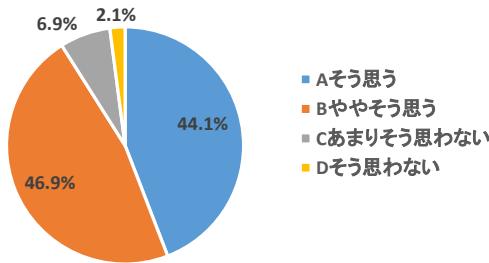
質問19 部活動に積極的に参加している。(入部している生徒のみ回答)



保護者のみ：一般



質問15 学校は、相談しやすく保護者の声や願いに応えてくれる。



R6 学校評価・教職員自己評価結果と考察・来年度へ向けて 回答者数33名

1 評価の方法

「A-そう思う」を4点、「B-ややそう思う」を3点、「C-あまりそう思わない」を2点、「D-そう思わない」を1点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。
なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いた。

2 総括

- ・5段階評価で平均点が4点以上の場合には、基本的には良好な評価を得られたと判断すると、本年度はおおむね良好であったと考える。
- ・教職員の共通理解のもと、外部との連携を図りながら、学校教育目標の実現を目指すとともに、バイアスに留意しつつ適切な評価を根拠としてプラスシユアップに努めていく。

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	評価	考察と来年度に向けて
1 学校教育目標に 関する事項	1	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	23	10	0	0	0	33	4.6	【考察】 ・今年度も肯定的な評価が多かった。知・徳・体は普遍的な教育目標であり、ベースとなる本校独自の目標である「やりぬく生徒」は、現代心理学でこれからの社会で必要な非認知能力として注目されつつあるGRIT理論（困難なことに立ち向かう能力・失敗しても諦めずに続ける力・自分で目標を見つける力・最後までやり遂げる力）と一致しており、大切に継承していかたい。 ・社会の変化（特に価値観、ネット、ジェンダーフリー等）がめまぐるしく、常に変化に即応したいと意識している。 ・なるべく教育目標に則した取り組みや活動を考えるようにしている。
	2	職員の共通理解のもと、学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	19	12	0	0	2	33	4.6	【来年度に向けて】 学校教育目標及び目指す生徒像を念頭に置き、共通理解のもと取り組んでいきたい。思いやりある生徒の育成のために工夫したい。
② 教育課程管理	3	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	13	17	1	0	2	33	4.3	【考察】 ・教務主任が授業変更で調整していただきありがたい。 ・学校行事や特別日課が多いため、行事の精選をしない限り、毎年ギリギリの授業時数になる可能性が高い。 ・時間外労働を減らすために、テスト後の採点や事務処理の時間を確保してほしい。 ・道徳はある程度しっかりと時間をかけていると思う。 ・学活の時間が多くなっていると思う。特に、年度はじめの学活を効率的に行なっていく必要がある。
	4	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	19	12	0	0	2	33	4.6	【来年度に向けて】 ・今後も働き方改革と並行して行事の精選は考えていくが、学校の楽しが失われないように配慮しつつ、その目的や在り方（準備の進め方も含めて）が限られた時間内で達成できるよう、共通認識を図りながら計画・実施していく。 ・教科等担当者が、各自で時数管理を行い、授業の内容を工夫しても調整がつかない時は、早めに教務主任等に相談をし、教科の指導内容が確実に生徒に定着するようにしていく。行事や祝日等が同じ曜日に重なってしまう場合は、曜日をそのまま入れ替えることも必要である。時数の確保を優先させる方向で調整する。 ・事務処理の時間が確保できるよう、計画的に反映させていく。
③ 学校運営組織	5	学校運営にふさわしい校務分掌（組織や個人）がなされ、それぞれ適切に機能している。	18	14	1	0	0	33	4.5	【考察】 ・できる限り分掌の分担を万遍なく、1人の人が背負いすぎないようにするといいと思う。 ・適材適所ということもあり仕方ない面もあるが、校務分掌の量にやや偏りがある。 ・予定の変更や連絡事項、文書の配布が急に行われることが多い。生徒へ伝達が徹底されなかつたことや伝達内容が学年で違ってしまったことがあった。全校に関わることはできるだけ余裕を持って連絡をしてほしい。 ・朝読書で、担任が教室にいない時が、学年によっては見られた。 ・生徒も職員も人数が減って来ており、從来の枠組みでは物理的に協働体制を組めない場合があるように感じる。 ・学年ごとにどんな課題（生徒指導など）を取り組んでいるかがよくわからない。
	6	資質・能力の向上に努め、読書と個の特性を伸ばす自発的な研修の推進に努めている。	12	16	2	0	3	33	4.3	・大事な情報共有が口伝で行われ、伝わっていないなったり、情報を得るのが遅かつたりする場面があった。機微情報でないものについては、もっとチームを活用してもよいと感じることがあった。 ・いろいろな部会で話し合わせたり、確認したことが、他の先生方に伝わっていないことがある。 ・学年間の情報共有は適切に行われているが、学年によって情報共有の部分が曖昧であったり、学年同士の情報共有がなされてないため方向性が異なる場面が幾度とあった。
	7	諸問題を組織で対応する協働体制の確立に努めている。	15	14	4	0	0	33	4.3	【来年度に向けて】 ・「運営委員会」「生徒指導部会」「不登校部会」など一部の職員で行われる会議で話し合われ決定したことは、必ず学年で共有させたい。放課後等の学年会議を位置づける。迅速に対応しなくてはならないことは、学年の朝の打ち合せの中などで、会議の出席者が伝達し、共通理解を図るようにする。
	8	迅速で適切な初動体制の確立と情報共有のために、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	10	16	6	0	1	33	4.0	・ベテランの職員から若手職員への指導力や事務処理能力の継承は喫緊の課題である。若手職員が遠慮無くベテランに指導を求められる体制を整えたい。 ・「報告・連絡・相談・確認」については、多忙の中、共通理解ができなかった事案があったという意見もあり、全教職員が同一歩調で生徒指導や行事等への取り組みができるよう、改善していきたい。必要に応じて、内容や役割等を確認する場を設定する。 ・協働体制が取れるよう情報共有しやすいチームを活用するが、機微情報や重要な情報については、紙ベースで周知を図る。
2 学校経営に関する事項	9	防災計画を策定し、実践的な避難訓練の工夫により、日常の安全意識を育てる指導を実施している。	12	20	0	0	1	33	4.3	【考察】 ・施設や設備の安全管理については、築15年以上が経過しているため、修繕箇所も増えてきている。定期的に安全点検を実施し、修繕がすぐに可能なものは素早く対応するよう関係部署に働きかけた。 ・年3回の避難訓練に際し、事前指導や事後指導をしっかりと行っていると思う。 ・通常の訓練とシェイクアウトの訓練と、どちらも大切だと思うのでバランスの良い実施を考えたい。
	10	健健康診断・心身の健康相談の他、健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	24	7	0	0	2	33	4.8	【来年度に向けて】 ・避難訓練については、授業時間だけでなく、休み時間等さまざまな時間帯に行ったり、事前の学習会等、防災教育等を継続して行ないたい。また、地震や火災の発生時刻を職員にも（主任だけに知らせて）伏せておき、とっさの状況下で教師自身もどのように動いたら良いのか、有事の際の自分の行動を想定することで、職員や生徒の防災に対する意識を高めていく必要がある。 ・さまざまな災害に応じて家族がどのような行動をとるのか把握しておいてほしいと願う。学校管理下における防災学習と併せて、休日などに家庭にいるときに被災した際にどのように行動をとるのか、個人で考えさせたり、家族と相談をして確認できるようにワークシートを配布して記入させる等、実践的で実効性のある取り組みとしていきたい。 ・すべての避難訓練でシェイクアウトを行う。
⑤ 保健管理	11	食の安全と、適切なアレルギー対応に努めるとともに、健康・安全と食教育の推進に努めている。	30	2	0	0	1	33	5.0	【考察】 ・心の問題を抱える生徒やアレルギーの生徒に対する対応等、養護教諭や栄養教諭を中心に健康に関する意識は高い。 ・養護教諭や保健委員会による保健活動がとても充実していた。 ・保健だより、給食だより等も充実している。 ・昼食中の放送は聞いていてとても勉強になる。また、栄養教諭の学級での食育指導も、生徒は非常に熱心に聞いて関心を持っている。栄養教諭の先生がいてくださることの重要性をとても感じる。 ・食育教育に力を入れていると思う。 ・給食時間中に食の大切さと食の安全について電子黒板を通して説明してくださるのでありがたく感じている。
	12	あいさつ、授業規律など基本的生活習慣の育成を通して、豊かな感性を育てている。	11	19	2	0	1	33	4.1	【考察】 ・学年会などで、学習規律の徹底や気持ち良いあいさつの意味を考えさせながら取り組ませ、その効果も表れてきている。 ・挨拶を自らする生徒はいるが、生徒会の活動に取り入れるなどして、もう少し学校全体で取り組んでもいいかと思う。 ・生徒の気持ち良い挨拶はまだできていないと感じる。 ・年間を通して、生徒会本部が中心となる取り組みを行うともっと成長すると思う。 ・日頃の学校生活で生徒会が主体となって学校生活をより良くしようと全校で取り組む機会がもっとあっても良いと感じる。生徒はエネルギーのある生徒が多いため、それを生かした取り組みを活発に行えると更に良いと感じる。 ・情報モラルは、日々の生活や道徳で取り扱って意識づけさせている。 ・あいかわらずSNSに関わるトラブルが続き残念である。情報モラル教育については、学校だけでは限界があるようにも感じた。
⑥ 心の育成	13	自治的な生徒会活動と異学年交流を推進し、伝統を受け継ぎ創る意識の育成と継承を図っている。	13	14	4	0	2	33	4.1	【来年度に向けて】 ・生徒の自主性をすべての教育活動で育むことの大切さを、まず教職員間で確認し、生徒会活動を中心に生徒が自ら考え判断し実行できるよう、企画・運営をパックアップすることを心がけ、本校の伝統としてつなげていきたい。 ・委員会活動に関しては、生徒の自主性を高められるよう、今後も検討していきたい。 ・読書ができる機会をきちんと確保し、学習面や生徒指導面からも、読解力向上につなげたい。 ・SNSに関しては、保護者の記述からも、「家庭で指導が及ばない」という困り感が伝わってくる。なぜSNSを長時間使用してはいけないのか、ゲーム依存症になるとどのような弊害があるのか、情報モラルを守らない場合はどうなるのか実例を挙げて自分事として捉えさせたい。また、学活や道徳、各教科に横断的に位置づけた「情報モラル教育」を実践し、全校体制で取り組んでいく。小中連携の中で、9年間の義務教育として「GIGAワークブックやまなし」の活用型情報モラル教材の活用を進めていく。外部機関を招聘した集会や授業参観、PTA学習会等で保護者とともに学ぶ機会を設け、危機感を共有してもらうようにする。
	14	読書指導や計画的な情報モラル教育を通して豊かな心の教育の充実に努めている。	18	14	0	0	1	33	4.5	

2 学校経営に関するこ と	⑦特別支援教育	15 教職員の共通理解のもとで特別支援教育及び交流学習の体制が整えられ、効果的な指導を行っている。	12	16	4	0	1	33	4.1	【考察】 ・特別支援教育については、蔚崎市支援員の先生方に積極的に関わっていただき、一人一人の生徒の特性を理解した上で指導することが可能になっている。特に、3年生の数学を中心に、夏季休業中の「特別講座」を手厚く指導していただいた。日頃から一人の生徒に対して複数の職員が関わり、手厚い支援や指導を心がけてきた。 ・蔚崎市の取り組みは手厚いと感じる。 ・担当の先生方がご苦労されながら生徒の支援体制を取ってくださっている様子が伺える。また、さまざまな場面で他の教諭とも連携を取り、サポートしてくださったり保護者と連絡を取ってくださるため非常に助かった。 ・特別支援学級の授業については、定期的に見直したり、修正することも必要だと思う。 ・不登校対策として、「かがやき教室」やSC、医療機関等との連携が進み、配慮が必要な生徒の支援に協力していただいている。不登校の生徒に対して、第一に考えることは、本人の居場所がどこにあるかということである。不登校部会で確認し、全体への周知を図るとともに、個々のケースにあった対応を模索している。 ・不登校の生徒に対して、担任や人間関係のとれる職員が、週1を基本に家庭訪問や連絡をとりあって対応している。負担感は否めないが、できる限り複数で対応し心理的なバックアップ体制を取る中で、組織として持続可能なサポートを行っている。 ・変則的な時間帯に登校してくるかがやきの生徒を、先生方が対応してくださりとても助かっている。 ・かがやき教室と本校の連携・考え方の共有などがあまり取れていないと感じる。
		16 かがやき教室等の関係諸機関との連携を強化し、組織的に生徒指導を行っている。	13	13	2	0	5	33	4.3	【来年度に向けて】 ・特別支援校内委員会を充実させ、一人一人の生徒の状況を把握し、学習面や生活面での指導をどのように進めていくのか具体的な対応策を検討する。 ・特別支援が必要な生徒に対して、進路選択などを念頭に置きながら、3年間を見通した個別の教育支援計画・指導計画を活用し、全職員が共通理解のもとサポートにあたれるようにする。特に、通級する生徒の見取りも作成する。 ・「特別な支援を要する生徒」は、普通学級にも存在するという認識のもと、個々の生徒の状況から具体的なサポートを生徒指導部会や不登校部会を中心として、全職員間で確認し合いながら進めよう。 ・教室で授業を受けることができず別室で学習している生徒をきちんと把握し、長い時間放置することができないように学年職員間で連携を図る。基本的に学年で対応するが、手が足りない場合は、学年や教科を超えて応援体制をとり、別室の生徒に関わるように工夫する。 ・かがやき教室との連携は必要不可欠であると認識しているが、生徒が不利益にならないように、プロ意識で連携したい。
	⑧研修	17 本校の教育課題や生徒の実態に応じた校内研究が企画され、協働して意欲的、積極的に取り組んでいる。	12	15	2	0	4	33	4.3	【考察】 ・研究主任や研究授業を提案した先生方の負担が大きかったようには感じるが、校内で学びを深める良い機会となった。 ・校内研では、ベテランから若手まで活発な協議が行われ、全教職員が共通理解のもと、研究主題に沿った授業改善を行うことができた。 【来年度に向けて】 ・「研修」については、「学び続ける教師」を念頭に、職員自ら意欲的に研修の機会を設定し、参加できるよう体制を整備するとともに、教職員や生徒への還元を奨励していく。 ・今年度の校内研も、山梨大学の教職大学院の先生方をお招きし研修に力を入れた。今後も気軽に全職員が授業を観覧する機会を設け、授業の工夫・改善に取り組みたい。外部組織での研修はもちろんのこと、OJTを通して、若手やミドルリーダー等それぞれのキャリアステージに応じた研修を積み、教員の資質向上を目指していきたい。
3 学習指導に関するこ と	⑨学習指導	18 主体的・対話的で深い学びを通して、3つの資質能力の育成に努めている。	11	20	1	0	1	33	4.3	【考察】 ・個別最適な学びに関しては、かなり限定的な学習活動になってしまった。 ・学年体制で自主学ノートの指導にあたっているが、ボトムアップの観点で限界を感じることがあった。 ・自主学ノートの質を上げるためにもなんとか個にあった意味のある自主学ノートにしたいが、現状ただやらせているだけになってしまっている。教員によっては4月から個にあった学習指導を行って成果を出しているので、そういった指導等を学べる機会が欲しいと感じた。 ・端末の活用が定着してきた。
		19 基礎・基本の習得と定着を図るために、個別最適化を意識して授業の工夫改善に努めている。	12	17	0	1	3	33	4.3	【来年度に向けて】 ・今年度は、主体的な学びにつながる授業づくりを心がけた。「どの生徒にもわかる」授業を目指し、各教員の持つ優れたスキルが、全職員に共有されるように、校内研等で支援しながら、各自の授業スキルを高めていきたい。 ・生徒は、毎日の授業に真面目に取り組んでいるが、基礎・基本の定着にはハードルが高い。家庭学習のあり方も含めて、①各教科ごと年度当初に学習方法を確認する②生徒どうしの「自主学習ノート」の交流を継続して実践する③タブレットの持ち帰りを効果的に進め、学習ログが見える形でのモチベーションを高める④自己肯定感を高めるアドバイスを積極的に仕組む等、自力で課題解決できることをつけることを目指す。 ・端末については、今後も校内研の中で「使ってみる」から「協働的な学びや思考をサポートする」効果的な場面での活用を模索し、授業改善につなげたい。紙で学ぶ良さとタブレット端末で学ぶ良さのバランスを取りながら、学力向上を目指したい。
	⑩生徒指導	20 家庭学習の定着と充実を図るために、自主学習ノートの質の向上とスタディ・ログの活用に努めている。	6	21	1	0	5	33	4.0	【考察】 ・今年度は、主導的・対話的で深い学びを通して、3つの資質能力の育成に努めている。 ・生徒は、毎日の授業に真面目に取り組んでいるが、基礎・基本の定着にはハードルが高い。家庭学習のあり方も含めて、①各教科ごと年度当初に学習方法を確認する②生徒どうしの「自主学習ノート」の交流を継続して実践する③タブレットの持ち帰りを効果的に進め、学習ログが見える形でのモチベーションを高める④自己肯定感を高めるアドバイスを積極的に仕組む等、自力で課題解決できることをつけることを目指す。 ・端末については、今後も校内研の中で「使ってみる」から「協働的な学びや思考をサポートする」効果的な場面での活用を模索し、授業改善につなげたい。紙で学ぶ良さとタブレット端末で学ぶ良さのバランスを取りながら、学力向上を目指したい。
		21 I C T 及び一人一台端末を活用した授業を推進し、どの生徒にもわかる授業の工夫改善に努めている。	19	12	1	0	1	33	4.5	【考察】 ・個別最適な学びに関しては、かなり限定的な学習活動になってしまった。 ・学年体制で自主学ノートの指導にあたっているが、ボトムアップの観点で限界を感じることがあった。 ・自主学ノートの質を上げるためにもなんとか個にあった意味のある自主学ノートにしたいが、現状ただやらせているだけになってしまっている。教員によっては4月から個にあった学習指導を行って成果を出しているので、そういった指導等を学べる機会が欲しいと感じた。 ・端末の活用が定着してきた。
4 生徒指導に関するこ と	⑪保護者地域との連携	22 生徒指導目標が設定され、共感的理解に基づく、厳しくも温かい生徒指導体制が整備されている。	12	18	2	0	1	33	4.3	【考察】 ・生徒指導目標が設定されたときに、どのように情報を伝え管理職に指導の方向性を確認するのかという流れを確認し、全職員が同步調で指導に当たることができるよう留意したい。 ・一人一人の生徒の特性を理解して指導にあたったことや、問題を抱えた生徒に対して、複数の教員が親身になって指導助言を行ったことが効果的であった。 ・生徒指導にあたるとき、否定的な言葉をかけないように心がけている。 ・不登校生徒、問題を持っている生徒の様子があまり伝わってこなかった。
		23 望ましい集団活動を通して、自己有用感を育む心の居場所づくりに努めている。	15	17	0	0	1	33	4.4	【来年度に向けて】 ・学校生活の中で生じる問題よりも、SNSに起因する問題、そして家庭環境に起因する問題が多いと感じている。 ・生徒指導部会や不登校対策部会を中心に、少しでも生徒一人一人が安心して生活し、心を癒やすことができる「心の居場所」が作れるよう、職員間の共通理解を行うとともに、スクールカウンセラーや医療機関等への相談を促したり、「かがやき教室」の利用を含めて環境を変えたりしながら、一人でも相談できる人を増やせるような体制を目指していく。同時に有効な指導を行うために、組織での役割を分担することも検討していく。 ・休み時間や清掃活動の様子など、授業中では見られない生徒同士の様子をよく観察し、人間関係をつかむことが必要である。また、学校外でのSNSを通じた生徒間の問題も見逃さないように、生活ノートや面談等のあらゆる情報収集ができるようアンテナを高く広げたい。「SOSの出し方」について学び、自らが困ったときには大人に相談できるようなセーフティネット体制を築いていく。
	⑫施設・設備	24 学習や行事等を通して、自己決定の場を設定し安心安全な風土の醸成に努めている。(追加)	13	19	0	0	1		4.4	・生徒指導関連の事案が生じた場合には、組織として対応することを徹底する。なお、対応すべき事案の際には、迅速に校長に報告するとともに、複数の職員で同席し、事態を共有しながら指導していく。 ・不登校部会や生徒指導部会での情報は、全職員に周知されるよう、担当からの伝達を徹底する。
		25 生徒に寄り添った生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援(かがやき教室等の関係諸機関との連携を含む)に努めている。(追加)	14	12	4	1	2		4.1	【考察】 ・生徒に寄り添った生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援(かがやき教室等の関係諸機関との連携を含む)に努めている。(追加)
5 保護者・地域社会との連携に関するこ と	⑬保護者地域との連携	26 保護者と連携して教育活動を進めるよう、学校ブログや各種たより等で情報発信と充実に努めている。	13	17	1	1	1	33	4.3	【考察】 ・学校だよりや学級・学年だよりなど発信されているものが充実しており、定期的に学校や生徒の様子を保護者に情報提供できた。 ・外部指導者の活用が、引き続き行われていると思う。食農体験のように学校の中だけでなく、地域の方々にも様々な面でご指導をいただく機会を設け、子供たちを地域全体で育てることで、生徒たちの経験や心がより豊かになっていくと思う。 ・小中連携では、本校と甘利小・北西小の校長が「三校会」で情報交換を行ったり、生徒が小学校に出向いて陸上サポートしたり、中学校教員が出席授業(国語・理科・数学)を行ったりしている。また、西中地区の6年生を合唱祭に招待することができた。新入生説明会では児童・保護者が参加し、6年生からの質問や相談に中学1年生が紙面で回答する機会を設けることで、4月からの中学校生活の準備とした。
		27 地域の教育資源の活用と工夫に努め、地域と共に学校を推進している。	12	15	2	0	4	33	4.3	・修学旅行の様子など楽しく拝見できた。発信に際して気を使うことが多い、多忙な中大変だが、可能であればこまめに更新できると保護者にとって嬉しいのではないかと思う。 ・ブログの担当がよくわからず、更新も滞っている。
	⑭接続を意識し、工夫して小中連携を図っている。	8	16	3	0	6	33	4.0	【来年度に向けて】 ・各たより等により、日常的に保護者や地域に情報発信することで、学校運営や生徒の状況について情報を共有しておくことは、生徒の成長をともに支えるという視点から重要である。今後も有効に活用し、学校の教育活動等に対する理解を促していく。 ・大きな行事に対して、その教育効果について潜在的に保護者も生徒も期待を持っている。頑張ったことがむくわれるよう評価すべきと考える。 ・小中連携において、蔚崎市教研、岐阜教育研究会等で積極的に情報交換を行い、発達段階を踏ました指導を連携するとともに、小学校6年生が中学校の生活を知る機会として、今後も合唱祭等への招待など企画し、中学校生活への期待が高まるように工夫していく。 ・ブログについては、情報発信としては有効だが、担当の労力を考えると検討を要する。学校HPがワードプレス等に切り替わることで、発信側も受け手側も有用感をもって対処できると考えるので、導入を市に働きかけていきたい。	
6 施設・設備に関するこ と	⑮施設・設備	29 学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	19	14	0	0	0	33	4.5	【考察】 ・学校も築15年が経過し、エアコンや水回りを中心修繕が必要な部分が多くなってきており、市へ要望を上げることで順次改善されてきている。昨年度普通教室、今年度支援学級にエアコンが整備されたことで、熱中症の心配なく教育活動ができた。 ・教科の備品はより多くの生徒が学べる機会が作れるよう改善が必要である。備品や用具がないため、学習機会が減っている場面が多くみられる。
		30 教育活動に必要な設備や教科備品、部活動備品などが、整備・充実されている。	15	14	2	1	1	33	4.3	【来年度に向けて】 ・安全点検の際に限らず学校内の施設設備の不具合に気づいた場合には、すぐに教頭に報告し、迅速に関係機関と対応することで破損を最小限にしていく。 ・各自に貸与されたiPadや各教室の整備された電子黒板等の備品を大切に扱うことや、施設設備等を自分の家と同じように大切に扱う指導は継続していく。 ・教科の備品については、教育効果を検討しながら優先順位を決め、予算が大きなものは年次計画の中で購入していきたい。
7 その他	⑯生徒像	31 生徒は、楽しく目標をもって学校生活を送っている。	12	19	1	0	1	33	4.3	【考察】 ・大半の生徒・保護者も「楽しい学校生活を送っている」と回答している。職員の評価も「前向きに活動している生徒が多い」という認識である。 ・目標の持てない生徒もいるので、生徒の居場所を大切にし、一人一人の生徒に寄り添った指導が望まれる。行動や言動に留意し、少しでもマイナスの変化が見られた時には、適切なアドバイスがとれるようアンテナを高く、関係者全員で幅広く対応したい。 【来年度に向けて】 ・生徒一人一人が、学習面・生活面・部活動等さまざまな場面で目標をもち、その達成に向けて取り組めるよう、機をとらえて適切に評価し、自己指導能力を向上させ、「自己有用感」や「やり抜く力」を育みたい。